その他の業務：院内感染対策室

＜特色と概要＞

感染対策に関する院内の組織は、院内感染対策委員会（ICC）、院内感染対策チーム（ICT）、院内感染対策ワーキンググループ（感染WG）から成り立っている。2018年からは、薬剤に関する業務に関してICTから独立した抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を発足した。院内感染対策室では、ICTとASTが協同し、感染症から患者やご家族・来院者、スタッフなど病院内のすべての人を守るために組織横断的な活動を行い、病院内の感染対策に努めている。感染症は施設を超え地域全体に広がる可能性がある。泉州感染防止ネットワークに参画し近隣の医療機関とも連携しながら、地域ぐるみの感染対策を推進していく必要がある。当院は、泉州南部地域では数少ない感染対策向上加算1取得施設であるため、感染管理加算の連携施設だけでなく、長期入院療養施設や介護に携わる職員などに向けても指導を行い、泉州南部地域の感染対策の向上に努めている。

＜実績＞

2023年度　院内感染対策室の活動と担当者

グループ	細　目	担当者
	BSI、SSI、VAE、UTI、症候（発熱患者）、針刺し、粘膜汚染	リンクスタッフ 丸川　山内　藤原
環境ラウンド	感染の視点から各病棟の環境を調査	リンクスタッフ ICTメンバー
医療材料	新規医療材料の検討	リンクスタッフ ICTメンバー
教育	職員に対する教育活動 ・院内感染対策研修会 ・e-learning研修 ・リンクスタッフ活動報告会 ・手洗い検査 ・手指消毒剤使用量調査 ・手指衛生直接観察 ・オーデットの実施 （末梢カテーテル、CVカテーテル、尿道カテーテル、個人防護具について）	リンクスタッフ ICTメンバー
清掃関係	清掃ラウンド	山内
広報	The院内感染対策News　発行	山内　RSTチーム　藤原
耐性菌、抗菌薬（ASTラウンド）	抗生剤適正使用チェック 医師への指導 サーベイランス 感染症レポート作成	ASTメンバー

◆教育

2023年6月26日～2024年1月14日 COVID-19対策のため、e-learningにて開催 ・COVID-19　5類移行に伴う当院での感染対策について ・AMR(薬剤耐性)対策について 出席率:92.7%
2024年1月15日～2024年5月31日 COVID-19対策のため、e-learningにて開催 ・院内の微生物検査システム　～FilmArrayを中心に～ ・当院での遺伝子検査を用いた感染症診療について ・アモキシシリンならびにアモキシシリン/クラブラン酸の不足時における代替薬について 出席率:　85.0%

◆感染管理加算

【相互査察】

監査施設・査察病院	実施日
監査病院：岸和田徳洲会病院	10/25
査察施設：市立岸和田市民病院	2/28

【合同カンファレンス】

テーマ	開催日	担当病院
『抗菌薬　TDM　臨床実践ガイドライン　2022』の改訂を考える ～改訂の概要とバンコマイシンのTDMの実施状況について～	6月21日	浪切ホール
「COVID-19　5類移行に伴う各施設での対応」について	9月28日	当院
ICTラウンドについて考える	11月29日	浪切ホール
新興感染症の発生等を想定した訓練（トリアージ・ゾーニング）について	1月25日	当院

◆結核関係

1)結核患者治療成績評価検討会（第1,2,3,4四半期）
管内の塗抹陽性結核患者の治療成績の検討及び助言
6月12日（月）、9月11日（月）、12月11日（月）、3月11日（月）
14時30分～17時　場所：大阪府泉佐野保健所3階
倭正也

◆厚生労働省研究班　厚生労働行政推進調査事業　新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「一類感染症等の患者発生時に備えた臨床対応及び行政との連携体制の構築のための研究」2023年度　一類感染症等集中治療アドバンストワークショップ

1）2023.12.17佐賀県医療センター好生館にて開催：倭正也、深川敬子、山内真澄
2）2024.2.4りんくう総合医療センターにて開催：倭正也、関雅之、山本雄大、深川敬子、山内真澄、金口優生、井上覚

◆その他

1)さのテレ「健康のススメ」テーマ感染/いろいろな感染「今気を付けるべき感染症」テレビ出演（2024.1月後半放送分）
山内真澄

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

COVID-19の対応については、新型コロナウイルス感染症対策会議で検討されていたが、5月8日からの5類移行に伴い、通常の感染症と同様の対応となるため、検討の場がICTに移行となった。厚生労働省から発出された文書を元にCOVID-19の感染対策を検討し、ICCの承認を得て、院内感染対策マニュルにCOVID-19の項目を追加した。移行後に変更となった感染対策の周知を念頭に第1回目の院内感染対策研修会では「COVID-19　5類移行に伴う当院での感染対策について」をテーマに行った。今年度も、感染対策向上加算3を取得した3施設、外来感染対策向上加算取得した16施設と連携を行った。加算連携施設に対して当院主催の合同カンファレンスでは、前半は5月8日からのCOVID-19の5類移行に伴い、各医療機関で感染対策の変更が求められた事を受けて、5類移行の各施設での対応をテーマに選択、後半は、診療報酬内で新興感染症の発生

等想定の訓練を年1回は開催するように定められている事から、トリアージとゾーニングをテーマとし、診療所と病院の混合グループで、模擬事例を元に対応を検討いただいた。加算3の3施設と希望があった外来感染対策向上加算2施設に対して、感染防止対策に関するラウンドを実施し指導を行った。12月の日本医療機能評価受審に向けて、前回の受審で指摘のあった項目を中心にアクアパックのシングルユース化、非感染廃棄物容器の変更やリネン庫の環境整備などの改善を行った。CRBSIサーベイランスを実施しているが、2023年上半期のデータでは、JHAISの50%タイルと比べると使用比は差がなかったが、感染率は、一般病棟で5.16/1000 device-days（1000 器具延べ使用日数）とJHAISの1.0/1000 device-daysと比べると5.0倍高い状況であった。三方活栓から側注する際の手指衛生、マキシマルバリアプリコーション（MBP）の認識の違いにより患者全体を覆う対応をしていなかった事が原因として考えられた。リンクスタッフに手指衛生の清潔操作前タイミングの再教育・MBPの概念について対策ニュースで広報を行った。CVCラインセットに患者を覆うオイフがセットされていないため、患者用のオイフをセット化する予定である。10月から始まったVREのアウトブレイクに対して、該当部署の手指衛生直接観察を含む直接指導やリスクが高い培養検査の実施等を行ったが、終息せず泉佐野保健所やO-FIT、FETP、大阪大学感染制御部の支援を受けながら終息に向けて対応中である。手指衛生の回数について、1患者あたりの目標回数を20と定めているが、中央部門では目標回数を上回る回数で達成した。一般病棟において、目標の20回を達成する病棟が、リンクスタッフの活動により認められるようになった。リンクスタッフに手指衛生直接観察を行ってもらったが、患者接触前65%（前年66%）、患者接触後74%（前年76%）であり、前年度と比べて遵守率に大きな変更はなかった。今年度もリンクスタッフの活動の一環である活動内容の実践報告会を開催し、活動の内容を共有した。薬局内クリーンタイムの実施においては、引き続き啓発活動を行っているため、新入局スタッフが入っても質を落とすことなく実施できている。検査科では、複数病棟で発生したVREアウトブレイクに対し、検査を円滑に実施できるように培地やPCR試薬の在庫を確保し、VRE陽性疑いと判明した時点で患者隔離など必要な対応を早急にとれるように院内感染対策室への迅速な連絡を徹底した。また外部の疫学調査チームへ耐性菌のデータ提出等を行い、ICTとして調査に協力することができた。感染症法に則り、届け出が必要な菌が検出された場合にカルテ記載を実施し、届出に漏れが生じないような体制を構築した。リハビリテーション部門では、2023年度もCOVID-19患者への介入を実施した。また部内でリンクスタッフを選出し院内の感染WGに継続して参加することで、各部門との関係性を密なものとした。またその内容を部門内で伝達し、職員への周知を図る事で感染対策の意識向上に繋げることが出来た。放射線部門では昨年度の手指消毒剤の使用量を前年比10%向上することを目標として活動を行った。結果として前年比14%向上し目標を達成した。適切な手指衛生のタイミングの理解を深め意識付けを行った結果が反映されたと思われる。一方、感染WGの活動を通して、装置周辺の高頻度接触部位に対する清拭の意識が低いことが分かったため、部門内で清拭の必要性を共有し改善していく。臨床工学部門では、手指衛生のタイミングと患者ゾーンの理解度を上げる活動を行った。また、部門内の感染チームを設置して手指衛生の直接観察を実施できるスタッフを拡充した。その結果、業務ごとの手指衛生の遵守率のばらつきが少し改善された。

来年度はVRE感染対策プロジェクトが発足される。リンクスタッフだけでなく、院内全体での危機意識の共有、感染症対応力の底上げを目指し、アウトブレイクの終息に向けてプロジェクトメンバーと協同しながら活動を行っていきたい。ICT/ASTメンバーによる薬剤部門スタッフへの積極的な啓発活動を実施し、環境整備の質を上げることを目標とする。海外からおよび海外への旅行客が増加しているため、輸入感染症に対しての対応が行えるよう、さらに体制を強化したいと考える。AST活動として、外来感染対策向上加算連携施設の抗MRSA薬、経口第3セフェム系薬、キノロン薬、マクロライド薬の抗菌薬使用状況の把握をしていくことを目標とする。VREのスクリーニング検査は来年度も継続されるため、より良い検査方法や報告体制を模索していきたい。感染症内科と連携し、必要な検査項目があれば前向きに検討し、院内感染対策に貢献していきたい。リハビリテーション部門では、ICT、感染WGメンバーと中心に部門内での感染対策を徹底し、部門内での感染の防止に努めていきたいと考える。放射線部門では、引き続き新人教育も含め感染対策の意識向上を行う。また、昨年度の感染WGの活動を活かし、装置周辺の高接触部位の清拭を意識して行っていく。臨床工学部門では、業務ごとの手指衛生の遵守率にばらつきがあり、更なる意識向上が求められる。部門内の感染チーム活動を推進し、感染対策の意識向上を行い、手指衛生の遵守率を上げることを目標にする。